

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年8月14日

【四半期会計期間】 第43期第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 先

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長江 貴史

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長江 貴史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第1四半期 連結累計期間	第43期 第1四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	3,897,158	5,268,414	15,344,516
経常利益又は経常損失() (千円)	96,106	1,032,050	190,700
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失() (千円)	64,734	1,152,020	470,798
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	59,604	1,148,340	444,372
純資産額 (千円)	6,175,026	4,521,826	5,670,366
総資産額 (千円)	15,099,389	21,584,235	21,890,029
1株当たり四半期純利益 又は四半期(当期)純損失() (円)	30.27	538.82	220.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	40.9	20.9	25.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第42期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第43期第1四半期連結累計期間及び第42期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に起因する外出自粛等により消費活動が停滞し、あわせて、米中貿易摩擦の激化等、世界経済の不確実性も高まる状況にありました。

外食産業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた休業要請や外出自粛等により来客数が激減し、緊急事態宣言の解除後も外出自粛の傾向が見受けられ、厳しい環境が継続しております。

このような環境の下、当社グループは、お客様や各従業員の安全を第一に、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、また、弁当をはじめとするテイクアウトのメニューを拡充し、さらにWebでの注文を可能とする等、お客様に満足いただける環境づくりに注力してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高52億68百万円（対前年同期比35.2%増）、営業損失10億84百万円（前年同期は営業利益91百万円）、経常損失10億32百万円（前年同期は経常利益96百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失11億52百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益64百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は174店舗であります。内訳は直営124店舗、暖簾12店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、上質な肉の組み合わせを中心とした「プチごほうびメニュー」、対象商品のご注文で生ビール無料券をプレゼントする「お肉&ビール モリモリ祭」、上質な和牛をお得価格で提供する「元気をお届け！黒毛和牛メニュー」、アイドルグループ「ときめき宣伝部」とのコラボフェア等、安楽亭の楽しさを伝える企画を実施し、スマホアプリやLINE配信、Twitter等を中心にお客様へのご案内を展開してまいりました。また、4月にフジテレビ「Live News it!」にて紹介される等、安楽亭の取り組みをお知らせする機会の増加に努めてまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は20億53百万円（対前年同期比36.7%減）となり、セグメント損失（営業損失）は1億92百万円（前年同期はセグメント利益2億14百万円）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は29店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾3店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「七輪房の日」、アイドルグループ「ときめき宣伝部」とのコラボフェア、「贅沢かき氷」の販売開始、「黒毛和牛と生ビール祭」の実施等、皆様を元気づけるとともに七輪房の楽しさを伝えるフェアを実施し、安楽亭業態同様、スマホアプリやLINE配信、Twitter等によるご案内を展開してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は3億54百万円（対前年同期比37.9%減）となり、セグメント損失（営業損失）は44百万円（前年同期はセグメント利益34百万円）となりました。

アークミール

アークミール各業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は154店舗であります。内訳は直営153店舗、FC1店舗であります。

なお、アークミール各業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアーノ（イタリアン）」を含んでおります。

「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」においてはテイクアウトの充実、各種クーポンの配信等を行い、来店促進を図ってまいりました。

以上の結果、アーキミールの当第1四半期連結累計期間の売上高は27億96百万円となり、セグメント損失（営業損失）は6億76百万円となりました。

その他業態

その他業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営5店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」、「えんらく（焼肉食べ放題）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「香港式中華バル ネイザンロード（中華）」、「アグリコ（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は64百万円（対前年同期比22.6%減）となり、セグメント損失（営業損失）は21百万円（前年同期はセグメント損失3百万円）となりました。

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ3億5百万円減少し、215億84百万円となりました。これは、原材料及び貯蔵品の減少、受取手形及び売掛金の減少、減価償却による有形固定資産の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ8億42百万円増加し、170億62百万円となりました。これは、短期借入金の増加等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ11億48百万円減少し、45億21百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等が要因です。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日		2,139,434		3,182,385		147,735

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2020年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,126,000	21,260	
単元未満株式	普通株式 12,134		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,260	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式43株が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	1,300		1,300	0.06
計		1,300		1,300	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,573,998	3,993,167
受取手形及び売掛金	678,520	538,406
商品及び製品	146,388	206,446
仕掛品	1,309	825
原材料及び貯蔵品	884,147	618,931
前払費用	441,901	381,240
その他	299,610	199,887
貸倒引当金	4,907	4,907
流動資産合計	6,020,969	5,933,998
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,810,324	3,720,372
機械装置及び運搬具(純額)	70,948	65,491
工具、器具及び備品(純額)	414,749	388,795
土地	6,290,349	6,290,349
リース資産(純額)	195,102	168,545
建設仮勘定	68,986	135,069
有形固定資産合計	10,850,461	10,768,623
無形固定資産		
のれん	69,876	64,175
その他	427,869	425,587
無形固定資産合計	497,745	489,762
投資その他の資産		
投資有価証券	134,525	138,944
長期貸付金	10,828	11,075
長期前払費用	377,845	345,606
繰延税金資産	306,783	263,459
敷金及び保証金	3,683,310	3,625,779
その他	34,555	33,930
貸倒引当金	26,996	26,945
投資その他の資産合計	4,520,852	4,391,850
固定資産合計	15,869,059	15,650,237
資産合計	21,890,029	21,584,235

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,062,389	702,277
短期借入金	2,522,572	3,730,260
リース債務	105,156	92,860
割賦未払金	252,521	239,173
未払金	545,971	520,980
設備関係未払金	54,566	12,440
未払費用	1,006,168	1,063,876
未払法人税等	156,861	193,591
未払消費税等	393,306	487,269
賞与引当金	161,175	107,297
転貸損失引当金	13,297	13,297
店舗閉鎖損失引当金	41,899	61,630
資産除去債務	15,058	19,726
その他	578,985	601,715
流動負債合計	6,909,929	7,846,397
固定負債		
長期借入金	6,766,030	6,701,971
リース債務	198,919	178,557
長期割賦未払金	796,907	801,092
繰延税金負債	103,715	103,934
役員退職慰労引当金	349,335	352,707
転貸損失引当金	22,836	19,512
退職給付に係る負債	560,640	552,477
資産除去債務	378,721	374,633
その他	132,625	131,125
固定負債合計	9,309,733	9,216,011
負債合計	16,219,662	17,062,408
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	25,054	1,126,966
自己株式	7,601	7,801
株主資本合計	5,671,936	4,519,716
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,043	843
為替換算調整勘定	1,576	1,576
退職給付に係る調整累計額	5,049	4,529
その他の包括利益累計額合計	1,570	2,109
純資産合計	5,670,366	4,521,826
負債純資産合計	21,890,029	21,584,235

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	3,897,158	5,268,414
売上原価	1,418,103	1,998,029
売上総利益	2,479,054	3,270,384
販売費及び一般管理費	2,387,530	4,354,864
営業利益又は営業損失()	91,524	1,084,479
営業外収益		
受取利息	253	1,166
受取配当金	1,196	1,200
受取地代家賃	1,562	14,806
貸倒引当金戻入額	161	
その他	12,014	66,199
営業外収益合計	15,188	83,373
営業外費用		
支払利息	8,711	20,454
賃貸収入原価	1,458	9,530
その他	436	959
営業外費用合計	10,606	30,943
経常利益又は経常損失()	96,106	1,032,050
特別利益		
固定資産売却益	15,267	
受取保険金	52,016	
特別利益合計	67,284	
特別損失		
固定資産除却損	494	4,428
固定資産圧縮損	50,185	
賃貸借契約解約損		56,731
特別損失合計	50,679	61,159
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	112,711	1,093,210
法人税、住民税及び事業税	20,640	15,223
法人税等調整額	27,336	43,587
法人税等合計	47,976	58,810
四半期純利益又は四半期純損失()	64,734	1,152,020
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	64,734	1,152,020

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	64,734	1,152,020
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,452	4,199
為替換算調整勘定	677	0
退職給付に係る調整額		519
その他の包括利益合計	5,130	3,680
四半期包括利益	59,604	1,148,340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	59,604	1,148,340

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第1四半期において、前連結会計年度に記載した会計上の見積りを行う上での仮定についての重要な変更はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
減価償却費	131,426千円	199,334千円
のれんの償却額	5,701千円	5,701千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,243,193	571,094	82,870	3,897,158	3,897,158		3,897,158
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	3,243,193	571,094	82,870	3,897,158	3,897,158		3,897,158
セグメント利益又は 損失()	214,225	34,518	3,538	245,205	245,205	153,681	91,524

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、(株)FSDから2店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては60,668千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	2,053,064	354,819	2,796,411	64,118	5,268,414	5,268,414		5,268,414
セグメント間の 内部売上高 又は振替高								
計	2,053,064	354,819	2,796,411	64,118	5,268,414	5,268,414		5,268,414
セグメント損失 ()	192,177	44,810	676,389	21,320	934,698	934,698	149,781	1,084,479

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	30円27銭	538円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失()(千円)	64,734	1,152,020
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	64,734	1,152,020
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,268	2,138,050

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社グループは、2020年5月22日開催の取締役会において、次のとおり、資金の借入れを行うことを決議し、資金の借入れを実施しました。

- (1) 資金用途 新型コロナウイルス感染症の影響による不測の事態に備えた運転資金
- (2) 借入先 株式会社商工組合中央金庫及び株式会社埼玉りそな銀行
- (3) 借入金額 540,000千円
- (4) 借入金利 0.5%、0.8%及び1.7%
- (5) 借入実行日 2020年7月30日及び2020年7月31日
- (6) 返済期限 2030年7月31日及び2035年7月31日
- (7) 返済方法 元金均等返済
- (8) 担保・保証の有無 無

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月14日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項

「注記事項（重要な後発事象）」に記載されているとおり、会社は、2020年5月22日開催の取締役会において、資金の借入れを行うことを決議し、2020年7月30日及び2020年7月31日付けで資金の借入れを実施している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。